

北電、今月から39%値上げ

県内戦々恐々

事業者

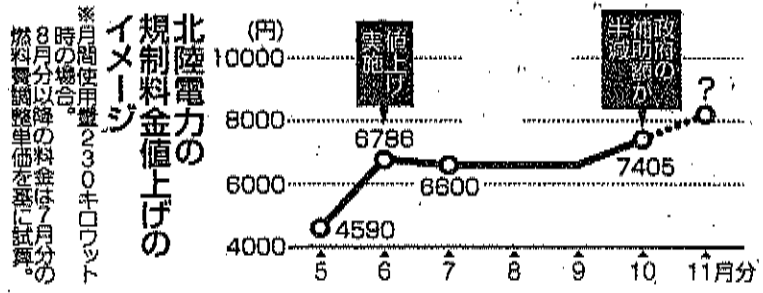
北陸電力(富山市)は今月から家庭向けを含む「規制料金Ⅱ」で平均39・7%の値上げを実施した。値上げは一九八〇(昭和五十五年)年以来四十二年ぶり。今年四月に自社の判断で改定できる「自由料金Ⅱ」も値上げしており、県内の事業者や一般家庭からは「苦しい」「一体どれだけ上がるのか」と、電力需要が増える本格的な夏を心配する声が相次いでいる。

(藤共生、金崎千花)

一般家庭

商品価格転嫁に苦惱 冷房節電くらいか

福井市照手一の生花店「珍花園」の加川幸男店長は、「電気代はどれくらい上がっていったらいいか」と戦々恐々の様子だ。店内では生花の品質維持のため、業務用の冷蔵庫を稼働させている。特に夏場は電気代がかさむ。「私の店では基本料が上がらういので、対策のとりようがない。花の価格にも転嫁できない」と話す。和菓子店の組合でも電気料金の値上げが話題になったという。「値段を記したパンフレットがあるためすぐに商品価格は上げられない。今年の九月ごろから商品の値上げを使う。小まめな節電を心がけるなど、なんとか対策したい」と備える。和菓子店の中にも「電気代は、明らかに上がる」と話す。福井市内の主婦(40)は「明らかに電気代は上がる。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は「明らかに電気代は上がる。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は「明らかに電気代は上がる。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は」



5月比2196円高く 11月以降さらに負担増か

規制料金の値上げは北陸電力の家庭向けの顧客百十万件のうち五十万件が対象で、標準家庭の六月分の料金は二千五百四十八円(41%)、高い八千七百四十八円となる。これから政府が一分から導入している負担軽減策を引くと、実質負担額は六千七百八十六円。五月分の四千五百九十円に比べ、二千九百九十六円高くなる。

ただ、十月分については政府の補助額が一時当たり七円から三・五円に半減する。十一月以降は負担軽減策の継続が決まっておらず、料金負担がさらに増加する可能性もある。

北電が「標準家庭」としているのは規制料金の中で最も契約数が多い「従電灯B」(月間使用量二百三十 kWh)というメニュー。これよりも多くの電気を使っている家庭では、値上げの金額が大きくなる。

を検討することになった」と話す。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は「明らかに電気代は上がる。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は「明らかに電気代は上がる。夫と子ども二人で暮らす福井市内の主婦(40)は」

いけど、屋根にソーラーパネルを取り付けておけばよかったかも」と後悔しているようだった。

夫と長女のほか、一匹の室内犬と暮らす福井市の女性会社員(30)は「今は窓を開けて過酷しているが、真夏になれば犬のため日中も暑い」と嘆いた。

エアコンをつけっぱなしにする」と電気料金の高騰を心配する。「冬は犬用の布団を用意して暖房を使いたくないようにしようと思うが、夏場はエアコンの設定温度を低くしすぎないようにするくらいしかない」と嘆いた。